

# 櫛の風

校長室便り 【第11号】

令和7年(2025年)3月24日 豊中市立第十六中学校 校長 坂井 英仁  
豊中市北条町3-18-1 TEL 06-6334-2841 FAX 06-6334-9763

## 『三学期の修了式、無事に終了いたしました！！』

3月24日(月)、本日無事に修了式を終えることができました。保護者のみなさま、地域のみなさま、1年間ありがとうございました。子どもたちの生き生きした姿を見ると、今年度1年間の成長をとても実感できました。来月4月7日には新たに新1年生を迎えますが、今後ともご理解ご協力のほど、お願い申し上げます。

最後になりますが、修了式で「しあわせは いつも 自分の心が決める」という相田みつをさんの詩をタイトルとして、生徒たちに講話をいたしましたので、紹介させていただきます。

### 【校長講話】

「しあわせは いつも自分のところがきめる」この言葉は、相田みつをさんという方がご自身の体験を詩集として出版されている中の1つです。どの詩も大変素晴らしいのですが、私はこの言葉が1番大好きです。この言葉には2つの意味があります。

1つ目は、普段、自分の周りに当たり前にある幸せに気づいているか、ということ。2つ目は幸せ、不幸せという価値観は自分の思い込みで生まれるということです。

1つ目の「当たり前にある幸せへの気づき」とは、今日も朝ご飯がおいしいと感じる幸せ、おはようと挨拶を交わしてくださる人がいる幸せなど、幸せを数えていけばきりがありません。そして幸せを数えれば数えるほど、実は自分を取り囲む幸せがたくさんあるのだと、実感できるのだと思います。

2つ目の「幸せという価値観は自分の思い込みで生まれる」とは、どんなに恵まれて幸せそうに見える人でも、本人が幸せだと思っていなければ、その人は幸せではないということです。例えばお金に不自由しない人、容姿に恵まれている人など周りから見たら幸せそうに見えても、本人が幸せと感じていなければ幸せではありませんよね。幸せとを感じるかは自分自身が作りあげた価値観です。その価値観に振り回され、今が幸せだと感じられないこともあるかもしれません。

しかし、本当は、自分に都合のいい出来事も、悪い出来事も、すべての出来事が自分を本当の幸せへと導く神様からのプレゼントなのではないでしょうか。

相田みつをさんの「しあわせは いつも自分のところがきめる」という言葉は、私には、『みなさん一人ひとりがいつも幸せであってほしい』という願いがあるのではないかと、そう感じずにはられません。

同じ出来事を経験しても、感じ方は人それぞれです。そうであれば、多くの幸せに気づけるよう、幸せセンサーの感度を上げて、楽しいことをたくさんキャッチしてみてもいいのではないでしょうか？



校長先生は、今とても幸せです。毎朝、「おはよう」と呼べば、「おはようございます」と返ってくる。皆さんが集中して授業を受けている時、行事で先生方と一体となって喜んだり、涙を流している時、部活動に無心に取り組んでいる時、休み時間に楽しそうに遊んでいる時、そんな姿を見ていても幸せを感じます。

フランスの哲学者で「エミール オーギュスト シャルティエ」と言う人がいます。この人は、「幸せ」は自らの意志によって引き寄せるものであると説いています。

「幸せは、山のようなもの。遠くから眺めているだけでは決して近づくことはできない。しかし、こちらから登って行けば、やがて頂上に辿り着く山のようなもの。待っているだけで手にできる幸せはない。」

私は今、「校長先生」と呼ばれることを、心から嬉しく思っています。それはきっと、校長先生になるという道を自ら選んだからだと思います。

エミールは、こういう言葉も残しています。「つらい仕事でも、自分で選んだ仕事ならば幸せである。」幸せは人それぞれですね！

4月から新しい生活に前向きな一歩を踏み出せるよう、一人ひとりがしっかりと目標をもって頑張り、来年の今頃、素晴らしいゴールを目指しましょう。